日本ウナギ会議２０１７　要旨

2017 年日本ウナギ会議実行委員会

主催：2017 **年**日本ウナギ会議実行委員会
日時：2017 年 6 月 4 日（日）　10:00 から 17:00
場所：中央大学後楽園キャンパス　6701 教室
参加者（順不同・敬称略）：有山義昭（環境省）、吉永龍起（北里大学）、太田愼吾、清水孝之（水産庁）、木村伸吾、吉田丈人（東京大学）、篠田章（東京医科大学）、白石広美（トラフィック）、白石嘉男、若林稔（日本養鰻漁業協同組合連合会）、内田和男（全国内水面漁業協同組合連合会）、横内一樹（水産研究・教育機構）、秋山貴彦、豊原有加（パルシステム生活協同組合連合会）、大和田猛、山本浩二（一色うなぎ漁業協同組合）、大久保敦（日本生活協同組合連合会）、米澤孝康（兵庫県）、塩崎尊志（鹿児島県）、阿久津哲也、執行賀名子（静岡県）、界美貴、遠藤拓也（全国蒲焼商組合連合会）、安村雄一郎（埼玉県）、道家哲平（日本自然保護協会）、丸田久美子（東京都）、及川浩之（株式会社大地を守る会）、海部健三（中央大学）
（注）各参加者は、それぞれの所属組織を代表するものではありません。
議長：海部健三（中央大学）

要旨：会議の内容を以下にまとめる。

記

(1) 以下の報告及び提案が行われた。
  i. ウナギをめぐる状況と対策について（水産庁：太田愼吾）
  ii. 資源動向の把握に向けた調査研究について（水研機構：横内一樹）
  iii. 静岡県におけるシラスウナギ採捕・流通に関する現状と対策（静岡県：阿久津哲也）
  iv. ニホンウナギの生息地保全の考え方について（環境省：有山義昭）
  v. ウナギの保全と持続的利用を目指した取り組みと資金提供者のマッチング・システムの提案（事務局）
(2) 報告及び提案を受け、具体策について議論された結果、以下の合意に至った。
  i. 池入れ量上限の設定方法
    - 資源変動の指標を確立するとともに、資源解析を進めることが必要
    - 関係諸国・地域（日中韓台）の専門家での資源管理に関する議論が必要
  ii. シラスウナギ流通の透明化
    - シラスウナギ流通の透明化は段階的に進める
    - 需給契約の成立の経緯や趣旨などについて整理や検討が必要
  iii. 成育場環境の保全
    - 「ニホンウナギの生息地保全の考え方」の活用
    - 成育場環境の保全に関する世論の喚起及び関係者との連携
    - 漁業法に基づく増殖行為の一環として、環境の改善などを含めることの検討
  iv. 取り組みと資金提供者のマッチング・システム
    - マッチング・システムを構築することとする。

- 実行委員会がマッチング・システムについて詳細案を提案し、2018 年日本ウナギ会議において議論を行う。
- 可能な部分については、実行委員会が、2018 年日本ウナギ会議までにマッチングを試行する場合がある。

v. 2016 年合意の取りまとめ

- 日本ウナギ会議2016の「ニホンウナギの現状と持続的利用・保全に向けた方針(案)」を 2016 年会議の参加者の承認を得て公開する。
- 2017 年会議の結果を踏まえ、「ニホンウナギの現状と持続的利用・保全に向けた方針（案)」を更新する。

vi. 今後の情報共有

- 国土交通省、農林水産省農村振興局、生産者、採捕者等の更なる参加と情報共有を促す。

vii. 実行委員会が承認すれば新規参加者は参加できるよう規定を変更する。

(3) 2018 年日本ウナギ会議実行委員が選出された（順不同・敬称略)。太田愼吾（水産庁)、木村伸吾（東京大学)、吉永龍起（北里大学)、内田和男（全国内水面漁業協同組合連合会)、横内一樹（水産研究・教育機構)、秋山貴彦（パルシステム生活協同組合連合会)、海部健三（中央大学）他 2 名。2015 年日本ウナギ会議での合意に従えば、2018 年日本ウナギ会議の開催時期は、2018 年 5 月ごろとなる。

(4) 要旨は公開、議事録は非公開とする。

以上